



ミャンマーは心の国

NPO法人
日本・ミャンマー
医療人育成支援協会

〒700-0811
岡山県岡山市番町2丁目6番7号
TEL:086-224-0102
URL:http://www.mjcp.or.jp

ミャンマーは心の国

三菱化学メディエンス株式会社 マネージャー
NPO法人 日本ミャンマー医療人育成支援協会 理事
坂本 秀樹



▲買い物に興じる著者

それは一本の電話から始まりました。2003年秋のことです。

私は当時、株式会社ヤマトロン・ダイヤトロン東京本社に勤務していました。日本で初めてトランスアミラーゼ肝機能をチェックする試薬を発売した会社です。

電話は、以前からお世話になっている岡山大学大学院歯学総合研究科生体情報医学講座 教授の小出典男先生(当NPO副理事)からでした。「トランスアミラーゼ測定するキット試薬はまだ君の会社で販売しているか」という問い合わせでした。日本では血液検体検査の自動化が進み、試験管の中で試薬を反応させて検査結果を得る手法検査の試薬は、販売を止めていく傾向にあり、ヤマトロン社でもその方向でした。

「何にお使いになるのですか」と私。「ミャンマーへ持っていくんだよ」と小出先生。

ミャンマー?聞き慣れない国の名前...これが私とミャンマーとの初めての出会いだったのです。

さっそく私と同期入社で岡山県の営業を担当している赤木日出夫君に連絡を入れて商品の手配を頼み、数日後には現品の確保ができました。小出教授にそのことを報告し、その際好奇心の強い私は厚かましく「このキット試薬をミャンマーへ運ぶのに同行させて頂けませんか」とお願いしました。小出先生は「問題ないだろうが、この活動の総責任者である岡田先生に聞いてみる」との返事で数日後に医学部長の岡田茂先生(当NPO理事長)のOKをもらったと連絡がありました。

2003年12月、初めてミャンマーへ出発。ミャンマーへ行くにはタイ航空でバンコクを経由して入国しなければならず、時差は約2時間程度ですが、関西国際空港を午前11時頃に出発してバンコクで乗換え、到着は現地時間の午後8時過ぎとなりました。当時のミャンマーの首都ヤンゴン(現在はネピド)は、まさに30年以上前の日本にタイムスリップしたような光景でした。

前11時頃に出発してバンコクで乗換え、到着は現地時間の午後8時過ぎとなりました。当時のミャンマーの首都ヤンゴン(現在はネピド)は、まさに30年以上前の日本にタイムスリップしたような光景でした。

例えば市内を走っている車の99%は日本車で、それも日本ではとくに廃車となっている車種が現役で堂々と走っていたり、トラック、バスなどの車体の広告が日本語がそのまま使用されていたり、とにかく驚きの連続でした。到着当日はヤンゴン市内の五つ星?のトレジャーズホテルへ宿泊して、翌日からDM



R(国立医療施設)へ岡田先生の引率のもとに私と赤木君も同行しました。この施設の責任者であったパインソー氏(現ミャンマー国厚生副大臣)とのミーティングにも他の先生と分け隔てなく参加させてもらいました。小出先生の現地における医療人指導の状況や真治紀之先生(当NPO理事)の仕事ぶりを間近に見ることができ改めて臨床検査の重要性を認識しました。

その後私の娘もミャンマーツアーへ参加することになったのですが、その時はこう話しました。「お金を出せば観光名所を回るツアーは幾らでもある。しかし大切なのはその国の人々と直接触れ合うことだ」娘は皆さんと一緒に2回も参加させていただき、そして今は3回目の訪問をめざして費用ねん出のため貯蓄に励んでいます。



隣のタイが「微笑みの国」とするとすれば、ミャンマーは「心の国」ではないかと思えます。最近の多くの日本人が忘れてしまった「心」がミャンマーにはまだ残っているからです。日本もミャンマーも仏教国であり共通するところが多いはずですが、彼の国には富める者と貧しき者の相互扶助の関係がまだまだ続いているように思われます。不幸なことに政治的な行き違いはありますが、そこに暮らしている人々は貧しくても平和で心豊かにみえます。私は今後とも、このNPOの活動に参加させて頂きながら微力ではありますが少しだけでもミャンマーとの友好にお役に立てればと思っています。

- 美しいミャンマーの寺院
- 上 市街地の中央にあるスーレーパゴダ
 - 中 ミャンマー1といわれるシュエーダゴンパゴダ
 - 下 カンドーシ湖のほとりにあるカラウエイクホール



▲検診標本作成中のム・ム・シユエ子宮がん検診クリニックにて

先生へ
こんにちは!如何お過ごしでしょうか。先生の家族と大学のアンチエイジング講座の皆様はお元気ですか?先生や岡山におられます先生たち、NPO会員みなさまに来る年が幸せな年でありますように、また、あらゆることが幸運な2009年でありますようにと祈っています。

私は先生や岡山のすべての先生たち、お友達みんなのことをいつも思い出しています。私はミャンマーの医師たちを導いてくださっている先生に感謝しております。先生たちのご尽力で立ち上がりました子宮がん検診クリニック

リニックのお陰で今は多くの女性が無料で検診をうけることができるようになりました。日本・ミャンマー医療人育成支援協会が寄贈してくださった顕微鏡で多くの患者標本が容易に診断できるようになりました。先生、12月までに約500人の女性がスクリーニングを受け、異常が見いだされた例ではがんが進行しない早い時期に処置を受けることができました。また、1月に先生たちがミャンマーを訪問されるのを心からお待ちしております。私は2009年1月12日のリサーチ・コングレス(ミャンマー医学研究集会)で、このことについてポスター発表を行います。

私は先生、原野先生、岡山大学のすべての先生を心から歓迎したいと思います。新年おめでとうございませす。

尊敬を込めて
ム・ム・シユエ

ム・ム・シユエからの手紙

ム・ム・シユエ

ミャンマーから 保健省副大臣らが 来岡

—サイクロン被害支援に対する謝礼—

NPO法人 日本ミャンマー医療人育成支援協会

理事長 岡田 茂



保健省副大臣
パイン・ソウ教授

昨年5月ミャンマーを襲った猛サイクロンによる災害復興の陣頭指揮をとっていたパイン・ソウ教授から二度岡山を訪問して復興支援に対するお礼と将来に向けての活動打ち合わせを行いたい」というお話があったのは救援活動も一段落ついた7月のことであつたと記憶しています。実現したのは11月になりました。一行は保健省副大臣パイン・ソウ教授を団長に中央ミャンマー



AMD A代表菅波医師より
記念品を受ける
キン・ピョン・チイ医師

医学研究局長トウン・ナイン・ウ医師、下部ミャンマー医学研究局長キン・ピョン・チイ医師、医科学局副局長タン・ゾウ・ミン医師の4人で、これまで私たちの学術交流、医療人育成事業に深くかわつてこられた方々です。一行は11月17日に成田に到着しミャンマー大使館と本NPO原野会員がお出迎えし、その後は岡田が同行いたしました。17、18日は東京にて石川理事ご夫妻の案内で宮城参拝、東京大学医学部訪問と同附属病院見学、石川先生が子供の頃過ごされた福生市の由緒ある酒造所の見学など行いました。19日は協同研究を進めている三重のニチニチ製薬本社工場見学。夕刻には伊勢神宮へと案内しました。20日岡山に到着し下野理事や多くの報道陣の出席

えをうけた後にAMD A(代表菅波医師)の歓迎式に出席。続いて済生会総合病院の糸島院長、浜家部長を表敬訪問しミャンマー医師の細胞診研修への感謝の気持ちをお伝えされました。夕刻、岡大鹿田キャンパスを訪れ田中研究科長、松井医学部長に表敬訪問の後、小出医学科長(NPO副理事長)の司会で大学院セミナーが開催されました。パイン・ソウ教授の挨拶、ミャンマーの医療教育(タン・ゾウ・ミン医師)とミャンマーと岡山大との共同研究の成果(キン・ピョン・チイ医師)の発表がありました。翌日午前は、高谷岡山市長、千葉岡山大学長表敬訪問。午後はパイン・ソウ教授の特別希望によりミャンマー肝炎対策でお世話になった日赤血液センター(土岐所長)を訪問、HLSAタイプピングについての研修についての打ち合わせを行っています。再び大学病院では岡大池田和真准教授より骨髓移植について実地説明を受けられました。その後、加計孝太郎加計学園理事長を表敬訪問され災害復興支援のお礼を述べられました。NPO会員との交流会は西山理事が準備を行い、22

2008年(平成20年)11月21日(金)

毎

ミャンマーのサイクロン被災者支援
保健省副大臣が謝意
来岡しAMD Aなど訪問

▲2008年11月21日
毎日新聞

▼2008年11月21日
山陽新聞

ミャンマー医療事情説明
岡山大 保健省副大臣らセミナー

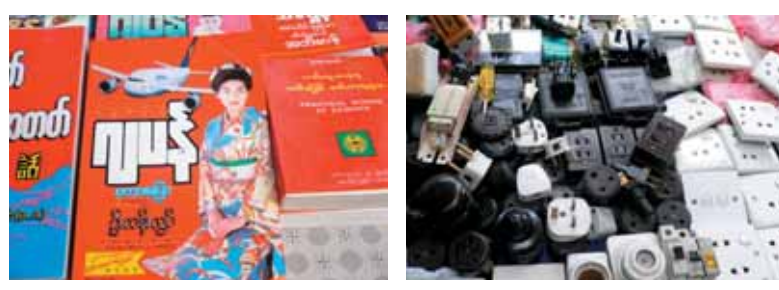
日岡山シティホテルで開催されました。約40名の会員の前でキン・ピョン・チイ医師の本NPOに対する感謝の講演(武田理事通訳)をされました。交流会には岡山理大附属中学生学生会のミャンマー災害支援ボランティア学生も招待し、楽しい会となりました。岡山での滞在は駅前の本NPO宿舎を利用していただきました。この間、細胞診研修に携わってくださった豊田共立病院医師の案内で、おでんを試食したり、武田理事とミャンマーの研修医の案内で後楽園や日本舞踊鑑

賞をしたり充実した時間を過ごされました。一連の歓迎行事については、RSKニュース、朝日新聞(三重)、中日新聞(三重)、毎日新聞(岡山)、山陽新聞(岡山)に報道されました。24日には岡山を出発され、25日は長崎大学での行事(小路理事)に参加されました。26日福岡空港より帰途の予定でしたが、当日バンコク空港が市民団体に占領されるというハプニングがあり心配しておりましたが2日遅れでシンガポール経由で無事帰国されました。関係者一同には厚く御礼申し上げます。

広報室から

会員の皆様には日頃よりご支援いただき感謝しております。さて1月15日から新しく2名の研修生サン・サン・トウエさんとネイ・リッさんをお迎えします。また現在研修中のス・レ・ティさんは1月末で研修を終了し帰国の予定です。ところで昨年春に研修に来ていたム・ム・シユエさん(本紙に書簡を掲載)は研修を終えた送別会で「私が研修して子宮癌の検診に努めれば、ミャンマーにおける子宮癌の患者は間違いなく減ります。私に勉強する機会を与えてくださった多くの方々を輝かせてお礼の言葉を述べられました。希望と自信に満ちたその言葉に私達は元気をもらった気がしました。今の日本でこれほどまでに使命に燃えて勉学に励む若者がいるだろうかと思いました。また研修生が日本で勉強できることに感謝し「生懸命だと言うことを会の活動を支えてくださっている会員の皆様にお知らせしたいと思えました。国際交流とかボランティアという範疇をこえて同じ地球に暮らす人間同士が助け合う温かい心のやり取りを感じたのでした。このような私達の活動をより多くの方々に知っていただき興味を持っていただくために、研修生とのふれあいのイベントを企画したり広報活動にも力を入れたらと思っております。どうぞ会員が一人でも増えるようにご協力を頂きたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

ミャンマーの街角で



日本語を学ぶ外国の人々の数は、この数年増加の一途をたどっているようですが、ここミャンマーも例外ではないようです。街角には日本語の「翻訳します」「印刷します」という看板もよく見かけますし、本屋(古本屋?)の店先には日本語会話の本も数種類必ず並んでいます。このモデルは女優の鈴木保奈美にそっくりです。もちろん本物かどうかは分かりませんが…。露天で見かけたコンセント、プラグ、アダプターなどです。いろいろな形状が混在しているのは、きっとこの国にいろいろな国の電器製品がそのまま入ってきているからだろうと思います。炊飯器は中国、ドライヤーは韓国、冷蔵庫は日本からのもの、なんてそのままのコンセントで使っているのでしょうか。